Japan Geoscience Union Meeting 2013
(May 19-24 2013 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2013. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MIS32-P16 会場:コンベンションホール 時間:5 月 21 日 18:15-19:30

天草御所浦ジオパークにおける地質の保護と守られる生態系の例
Conservation strategies for ecosystem and strata outcrops in Amakusa Goshoura Geopark

長谷 義隆 [1*], 鵜飼 宏明 [1], 廣瀬浩司 [1]
Yoshitaka Hase[1*], Hiroaki Ugai[1], Koji Hirose[1]

[1] 天草市立御所浦白亜紀資料館
[1]Goshoura Cretateous Museum, Amakusa-City

熊本県天草市御所浦地域には、恐竜をはじめとする貴重な化石を含む地層がある。旧御所浦町では御所浦地域全体を１つの野外博物館と見立てる「御所浦町全島博物館構想」により、平成９年以降、化石採集場、化石公園、アンモナイト館などが設けられた。「天草御所浦ジオパーク」認定後には、30 地点を越えるジオサイトが確保されて、現在もその整備が進んでいる。ジオサイトの中に、地質や化石を保護することとそれを保全することで直接生態系を保護することに繋がっている場所があるので、その事例を報告する。

地層・化石の保護の事例では、通称「スフェノセラムスの壁」と呼ばれるジオサイトがある。このサイトの見どころは上部白亜系姫浦層群のシルト岩の層理面上に無数のスフェノセラムス属の二枚貝と多種の生痕化石が観察される点である。このジオサイトは本来斜面崩壊防止用の金網で覆われていた地層が金網の劣化により露岩となっていることで、観察可能になった。このサイトについては安全にアクセスできる通路の整備および学術調査が行われている。

ジオサイトの一つ、アンモナイト館は直径約 60 ｃｍの九州で最大級のアンモナイトを見学できる施設である。この化石は本来海岸に露出していたもので、海岸道路の整備によって埋め立てられて消滅するはずのものであったが、住民の保護活動により、アンモナイト館として、アンモナイトを含む昔の海岸部分を残す形で保存されているものである。

このアンモナイト館周辺には、上部白亜系姫浦層群の黒色頁岩が露出し、コンクリートなどの防護壁では覆われていない。露頭からこぼれ落ちる頁岩の破片が溜まった場所には準絶滅危惧（NT）に指定されているツメレンゲ（Orostachys japonica）が自生している。この植物は日当たりと水はけのよい場所に多く生息し、チョウ目の準絶滅危惧（NT）クロツバメシジミ西日本亜種（Tongeia fischeri shojii）の食草となっている。

アンモナイト館周辺は御所浦ジオツーリズムガイドが案内する「牧島コース」の重要なジオサイトである。この場所周辺一帯の地層および動植物の保全は御所浦白亜紀資料館の職員と御所浦ジオツーリズムガイドが自主的に行っている。露頭はそのままの状態で管理されないと雑草や雑木に覆われていく。これらを定期的に伐採除去することで、地層だけでなく、希少なツメレンゲとクロツバメシジミを観察できる場所が維持されている。

このように、アンモナイト館周辺ジオサイトは、地質とそれに関連する動植物の生態系があり、人がそれを保護する活動があって、地層や化石に加え、その地域に特有な動植物を観察に人が来るという持続可能な環境が維持されている。

キーワード: 天草御所浦ジオパーク, 地質遺産の保存・保全, 守られる生態系
Keywords: Amakusa Goshoura Geopark, conservation strategies for ecosystem and strata outcrops